

伊地知氏書冊

世に於ては

世に於てはありては

いふもや書に

たうらふく

じし事と

今と花

さぬおの

あまらん

うの心

たのみい

ふく

淡

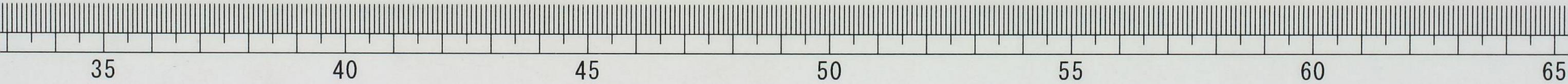
あ

い

あ

あ

あ







しー野々秋といふ蘭土も送る  
世も人々の心は海に  
めりう塩さしよ乃海に  
高しよと終る地着やし  
あしとす法のの者入る  
日しよしよの石の行あり

のきや塩... ちりといふ  
杉もよ海あり  
るたてゆく塩ひ  
雨のりいす  
志の子あな  
一本のた  
雲は海  
法も  
あつ井  
我店  
津ぬ  
都



主候 玉葉の如くしるのみ  
うらひしつらき世に御の

答句

屋上より梅の香の梅  
心やいぢれらつては  
ふししれらるるは  
夕暮と人を見ぬ人の  
のころは世にもふ  
らたつたは東の  
秋風は木の葉の  
もきては木の葉の  
風や木の葉の  
ふらつては柳の  
木葉は木の葉の  
あひまは木の葉の  
何れは木の葉の



河内... 深... 水... 本... 高... 嶽

も... 書...

書...

宗...

具

も...

具...

宗...

宗...

高... 深... の... 富士... 嶽

も... 中... の... 書...

書... の...

宗... 紙...

真

も... 十... 書...

其... の...

宗... 紙...

宗... 紙...